



おいしいおかゆ

(4分)

劇団 オン・サンタ

むかし：あったとき
あるところに女の子がお母さんと二人きりで住んでいたんだとき：

とても貧乏だったので あるとき とうとう 食べるものがなくなっ
てしまった：

そこで女子は食べ物を探しに森へ出かけていった：
すると おばあさんに会った：そのおばあさんは女の子が困っている
ことをちゃんと知っていて 女の子に小さいお鍋を一つくれた：

1



そのお鍋は不思議なお鍋で

小さいお鍋や煮ておくれ：」

というと とてもおいしいおかゆを煮てくれて 食べても食べてもあ
とからあとからおかゆが湧き出してくる：そして

小さいお鍋や 止めとくれ：」

というと 煮るのを止めるのだった：

そこで女の子はこの鍋をお母さんの所へ持って帰って それからとい
うもの 二人はいつでも好きな時に おいしいおかゆを好きなだけ食べ
ることができるので お腹がすくことはなくなっただとき：

2



劇団 オン・サンタ



ところが ある日：女の子がよそへ出かけていた時のこと：お母さんがおかゆを食べようと思つて

「小さいお鍋や煮ておくれ：」

といつてみたら おなべはやっぱりお母さんにおかゆを煮てくれた：
そこで お母さんはお腹いっぱい食べてから さあ とめてもらいたい
：と思つたけれど 今度はどういえばいいかわからなかつたんだとさ：

そこで お鍋はいつまでもいつまでも グツグツグツグツグツ：

おかゆを煮ていたので 間もなくおかゆは お鍋のふちからどんどんこぼれ出してきた：

グツグツグツグツグツグツ：



3



そのうち台所がおかゆでいっぱいになり：

グツグツグツグツグツグツ：

家じゅうがおかゆでいっぱいになつても：

グツグツグツグツグツグツ：

家の前の道も 隣の家もおかゆでいっぱいになつても：

グツグツグツグツグツグツ：

お鍋はまるで世界中をおかゆでお腹いっぱいにしてしまいたいと思つているように いつまでもいつまでも：

グツグツグツグツグツグツ：

おかゆを煮続けているものだから 町じゅうが大騒ぎになつてしまつた：でも だーれも どうすればいいかわからなかつた：

4



とうとうおかゆの流れこんでいない家は町であと一軒：ということになった時 女の子が帰って来た：

そして たった一言

小さいお鍋や止めとくれ：」

というと お鍋はピタッと煮るのをやめたんだって：

でもねえ：それから長い間：この町へ帰ってくる人たちは 自分の通る道をパクパク食べて 食べて 食べ抜けなければならなかったんだっ

てさ：

いっちゃんぽーんさけた



おしまい



《参考資料》

『完訳 グリム童話 Ⅱ』小澤俊夫・訳 ぎょうせい
『おはなしのろうそく 1』内東京子ども図書館

